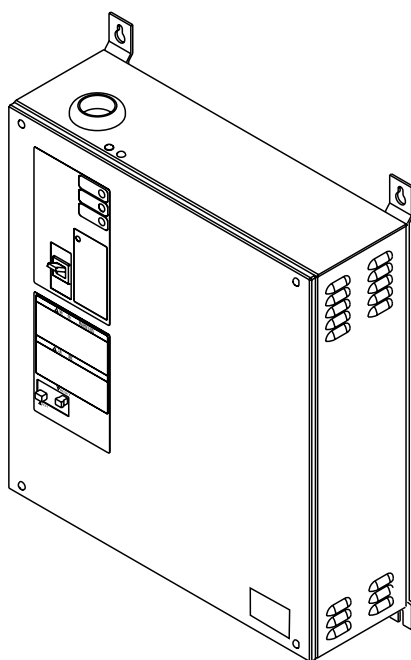


工事要領・取扱説明書

製品名： 電気瞬間湯沸器

型 式： EI-10,20,30,40N4



本製品を安全に正しく設置・ご利用していただくために、事前に必ず本書をお読みいただき、十分に理解してください。

設置工事（試運転）後は本書をご使用になる方に必ずお渡しください。

本書はお読みになった後、いつでも使用できるように所定の場所に保管してください。
(この工事要領・取扱説明書に記載されている事項を守らないで発生した事故について弊社は責任を負いません。)

株式会社 **日本イトミック**

〒130-0002 東京都墨田区業平 5-11-3 イトミックビル

TEL:03(3621)2121 (大代表) FAX:03(3621)2130

フロント課 (修理依頼承り先)

TEL:03(3621)2161 (代表) FAX:03(3621)2163

もくじ

共通項目	2
安全上のご注意	3
EI-N4について	5
各部名称	5
仕 様	5
工事要領	6
施工前にご確認ください	7
①部品の確認	7
②設置場所の確認	8
施工する	9
①湯沸器の取り付け	9
②配管工事	10
③電気工事	11
④配線用遮断器の動作確認	12
⑤前面パネルの取り付け	12
⑥試運転を行う	13
⑦施工後の確認	13
取扱説明	14
使用方法	15
①使用前の準備と確認	15
②お湯を出す／お湯の温度を調整する	16
③ランプの点灯状態について	16
長期間使用しないときは	17
お手入れの方法(外装の清掃)	17
こんなときは	18
リセットの方法	20
修理技術者の方のみ	
アフターサービス	21
修理をご依頼の際には	21

共通項目

安全上のご注意

本書にはお客様への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただく事項を記載しました。設置の前に、本書を必ずお読みになり、内容をよく理解された上で設置してください。製品引き渡しの際は必ず本書をご使用になられる方へお渡しください。

警告表示の意味

本書では、取り扱いを誤った場合などの危険の程度を、次の2つのレベルに分類しています。

 **警告** この表示の欄は、『死亡または重傷を負う可能性が想定される』内容です。

 **注意** この表示の欄は、『傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される』内容です。



△の記号は、注意(警告を含む)をうながす事項を示しています。
△の中に具体的な注意内容が描かれています。
(左図の場合は高温注意を意味します。)



⊘の記号は、してはいけない行為(禁止行為)を示しています。
⊘の中や近くに、具体的な禁止内容が描かれています。
(左図の場合は分解禁止を意味します。)



●の記号は、しなければならない行為(強制行為)を示しています。
●の中に、具体的な指示内容が描かれています。
(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜くこと、という指示です。)

重要事項：必ずお守りください

 警告	
	アース(D種接地)工事を確認してください。 アース工事がされないと故障や漏電の時に感電するおそれがあります。
	電圧は規定電圧の±10%以内でお使いください。 火災の原因になります。
	必ず電源一次側に漏電ブレーカーを取り付け、動作を確認してください。 故障のまま使用すると漏電の時に感電するおそれがあります。
	結線部は正しく、ゆるみがないように配線作業をしてください。 発火・感電の原因となります。
	給湯側の配管途中に必ず安全弁(付属品)を取り付けてください。 万一の不動作で、湯沸器の破裂のおそれがあります。
	本体は必ず垂直に設置してください。 破裂・故障の原因となります。
	絶対に改造はしないでください。 火災・感電・やけどやケガの原因となります。
	屋外に設置しないでください。 感電や故障の原因となります。
	設置時およびリセット操作時以外は前面パネルを開けないでください。 感電・やけどのおそれがあります。
	鳥居配管はしないでください。 破裂・故障の原因となります。

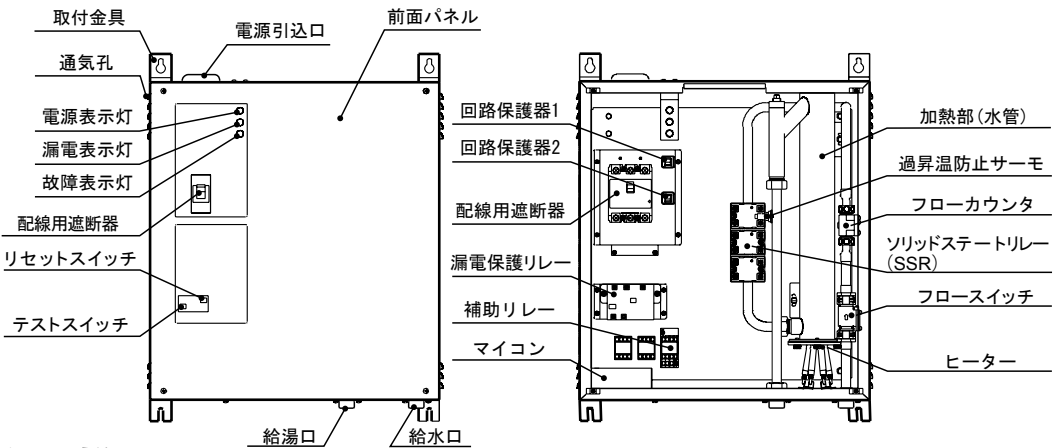
⚠警告	
	通電中は端子部に触らないでください。 感電・短絡します。
	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	使い始めや排水時には瞬間的に熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	湿気の多い場所や浴室には設置・使用しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると故障や感電のおそれがあります。

⚠注意	
	左右および底面にある通気孔をふさがないでください。 故障や誤動作などの機器異常の原因となります。
	湯沸器本体および配管に乗ったり体重を掛けたり物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、漏水や故障の原因となります。
	水質基準に適合した水道水以外は使用しないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。水道水に添加物を混ぜることも同様の危険があります。
	湯沸器の運転質量に十分耐えられる強度を持った壁面に必ず垂直に設置してください。 落下の原因になります。
	異種金属の配管をする場合は、電食防止処置を施してください。 漏水の原因になります。
	長期間のご使用によってタンク内に水アカがたまったり、配管材料の劣化などによって水質が変わることがありますので、固形物や変色・にごり・異臭があった場合は飲用にしないでください。給湯温度が 60℃ 以下の場合は、今一度やかんなどで沸かしてからお飲みください。 健康を害するおそれがあります。
	火災予防条例に則した離隔距離を取って設置してください。 壁面損傷のおそれがあります。
	床面に防水・排水処理を施してください。 水漏れが起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。
	規定の給水圧力にてご使用ください。 誤動作や故障の原因になります。
	配管距離は最長で 6m 以内としてください。 破損や故障の原因になります。
	水の凍結が予想される場所では凍結防止処置を施してください。 タンクや配管が破裂してやけどをするおそれがあります。
	給水温度の上がりすぎに注意してください。 やけど、漏水、故障の原因となります。

EI-N4について

イトミックのEI-N4は温度上昇設定 43℃の壁掛型電気瞬間湯沸器です。(EI-10N4は38℃ 昇温) 通水量を検知し、昇温に必要なヒーターへの電力供給を制御して水を加熱します。

各部名称



仕 様

型 式	EI-10N4	EI-15N4	EI-20N4	EI-30N4	EI-40N4
標 準 電 圧	三相 200V				
ヒーター容量	10.1kW	15kW	20kW	30kW	40kW
定 格 電 流	29.2A	43.3A	57.7A	86.6A	115.5A
発 生 熱 量	36.4MJ/h	54MJ/h	72MJ/h	108MJ/h	144MJ/h
号数換算(※1)	5.7	8.6	11.5	17.2	22.9
使用最低流量(※2)	4 ^{リットル} /分以上				
43℃ 上昇時 出 湯 量	(※3) 30℃ 上昇時 4.8 ^{リットル} /分	5.0 ^{リットル} /分	6.7 ^{リットル} /分	10.0 ^{リットル} /分	13.3 ^{リットル} /分
常用給水圧力	0.1 ～ 0.4MPa				
安 全 装 置	漏電検出装置、過昇温防止装置(※3)、主回路遮断装置				
満 水 重 量	26.0kg			35.8kg	
使 用 水 温	0 ～ 35℃ (※5)				
周 囲 温 度	0 ～ 40℃ (※5)				
湿 度	10 ～ 60% 以下(※6)				
本 体 寸 法	幅 500 × 奥行 170 × 高さ 550mm			幅 600 × 奥行 170 × 高さ 550mm	
仕 様 変 更	可				

(※1) 号数とは、水温から25℃上昇させた時の毎分の出湯量を表します。 (※2) 使用流量範囲は通電が継続する最低の流量で、それ以下の場合は動作しません。 (※3) EI-10N4は最高38℃昇温です。 (※4) 約85℃で作動し、ヒーターへの通電をストップします。 (※5) 但し、凍結のないこと。 (※6) 但し、結露のないこと。

機種ごとの有効出湯能力

各機種毎の出湯能力の目安です。EI-N4からのお湯と水を混合して43℃のお湯がどれだけ供給できるかを計算したもので、便宜上放熱ロスや水温による体積変化などは計算対象から除外しています。

型 式	ヒーター	水温 0℃		水温 5℃		水温 15℃		水温 25℃		水温 35℃	
		max	min	max	min	max	min	max	min	max	min
EI-10N4	10.1kW	(※6)		(※6)		5.2		8.0		18.1	
EI-15N4	15kW	5.0	4.0	5.7	4.5	7.7	6.1	11.9	9.6	26.9	21.5
EI-20N4	20kW	6.7		7.5		10.2		15.9		35.8	
EI-30N4	30kW	10.0		11.3		15.4		23.9		※7 53.8	
EI-40N4	40kW	13.3		15.1		20.5		31.9		※7 71.7	

● maxは、そのときの水温で43℃で給湯できる最大流量です。これ以上になると湯温は43℃以下になります。
● minは、そのときの水温で43℃で給湯できる最小流量です。これ以下ですと給湯器の流量スイッチが切れて水になります。
● 機器選定の目安として東京23区・水温15℃想定でシャワー（一カ所給湯）に利用される場合、EI-30N4（ヒーター容量30kW）以上を推奨します。
※6: EI-10N4は、水温0℃では38℃（能力限界）までしか昇温できません。したがって43℃のお湯を給湯することはできません。
※7: 計算値。

工事要領

製品を正しく取り付けるために必ずこの工事要領に沿って施工してください。

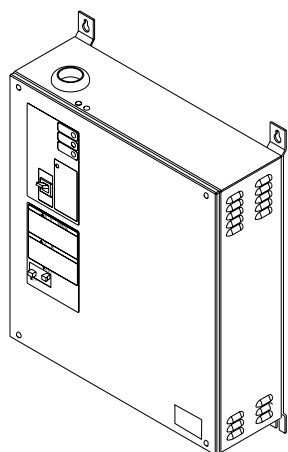
施工前にご確認ください

施工前にご確認ください

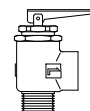
① 部品の確認

【製品に同梱されています】

EI-N4
本体



付属品



安全弁(0.5MPa)



工事要領・取扱説明書×1
(この冊子です※)

※当冊子は工事終了後、ご使用になる方へお渡しください。

【お客様にてご手配ください】

お客様手配品 (→ P.10「配管参考図」参照)

- 混合水栓 湯沸器には出湯温度を調節する機能がないため必要です。
- 逆止弁 湯沸器や給湯配管の湯水の逆流を防止します。
- ストレーナー 湯沸器内へのゴミの流入を防止します。
- 止水栓 流量の調節やメンテナンス等の際に給水を止めるため必要です。
- 漏電ブレーカー 万一の故障や漏電した際の事故を防止します。(30mA・0.1秒)
- 固定用ボルト類 現場に合った固定用のボルトをやAYプラグ等をご用意ください。
- ユニオン・フランジ メンテナンスや修理の際に配管を取り外せるようにするため、ご用意ください。

上記手配品は必ずご用意ください。

オプション品

- 離隔取付金具 本体と併せてお使い頂くことで火災予防条例に適した50mmの離隔距離を簡単に取れるようにした専用取付金具です。施工の手間を省きたい場合など、別途弊社にてお求めください。

②設置場所の確認

チェックリスト

項 目	チェック内容	チェック
凍結対策	冬季にも凍結しない場所ですか？ 冬季に凍結する場所の場合、保温工が必要になります。	☐
メンテナンススペース	メンテナンスのために本体を取り外せるスペースは確保されていますか？ メンテナンススペースが取られていないと、修理やメンテナンスの際に製品を取り外すことができません。下記の取付寸法と併せてご確認ください。	☐
配管距離	配管距離が最長6m以内で収まる場所ですか？ 給湯場所が機器より離れすぎている場合は動作が鈍くなり、同時にヒーターの余熱により安全装置が作動します。配管は必ず最長で6m迄としてください。	☐
取付壁面	垂直な壁面ですか？ 垂直でない場合はお取り付けいただけません。	☐
	本体質量に耐えられる壁面ですか？ 強度が不十分な場合は補強を行うなどの対策が必要です。	☐
	火災予防条例に沿った離隔距離を確認しましたか？ 必ず事前に所轄の消防署に火災予防条例による離隔距離を下記＜参考＞および図にてご確認ください。	☐
電源の有無	三相 200Vの電源が引込める位置にありますか？ 無い場合は取り付けや増設が必要です。	☐
給水圧力	給水圧力は0.1MPa ～ 0.4MPaの間になっていますか？ 湯沸器が正しく動作しませんので、必ず上記の範囲の給水圧力があることを確認してください。0.4MPaを越える場合は減圧弁を設け、調整を行ってください。	☐

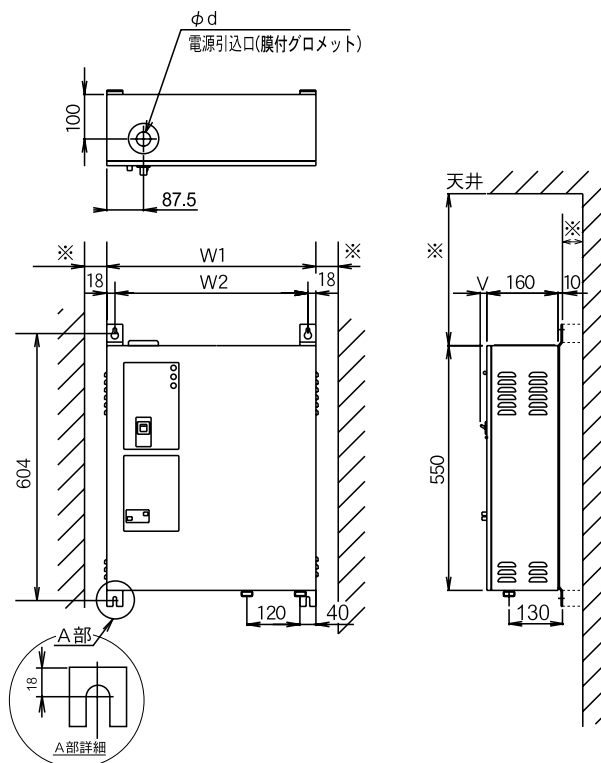
取付寸法

型式	W1	W2	φ d	V
EI-10N4	500	464	41.5 (下穴51)	17
EI-15N4				
EI-20N4				
EI-30N4	600	564		21
EI-40N4				

< 参考 >

東京都火災予防条例第八条の離隔距離

種類	項目	周囲の仕上り	
		不燃材料以外	不燃材料
12kW以下 (EI-10N4)	上方	40cm以上	20cm以上
	側方	4.5cm以上	1.5cm以上
	前方	15cm以上	定めていない
	後方	4.5cm以上	1.5cm以上
12kW以上 (EI-15N4 と EI-40N4)	上方	60cm以上	50cm以上
	側方	15cm以上	5cm以上
	前方	15cm以上	定めていない
	後方	15cm以上	5cm以上



施工する

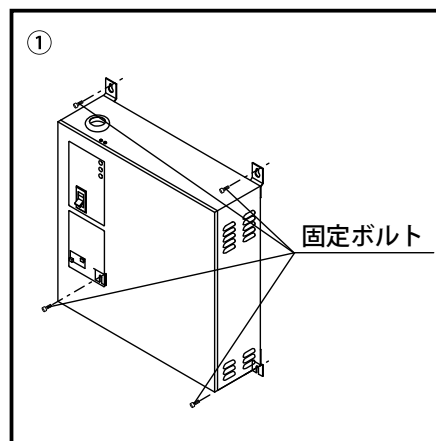
①湯沸器の取り付け

⚠警告	
!	本体は必ず垂直に設置してください。 破裂・故障の原因となります。
⊘	屋外に設置しないでください。 感電や故障の原因となります。
⊘	設置時およびリセット操作時以外は本体前面パネルを開けないでください。 感電・やけどのおそれがあります。
⊘	湿気の多い場所や浴室には設置・使用しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると故障や感電のおそれがあります。

⚠注意	
!	湯沸器の運転質量に十分耐えられる強度を持った壁面に必ず垂直に設置してください。 落下の原因となります。
!	火災予防条例に則した離隔距離を取って設置してください。 壁面損傷のおそれがあります。
!	床面に防水・排水処理を施してください。 水漏れが起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。

- ①十分な強度を持つ壁へ、火災予防条例に則した距離をとって固定ボルトやAY プラグ等で垂直に固定してください。

→火災予防条例についてはP.8 参照。



②配管工事

⚠警告

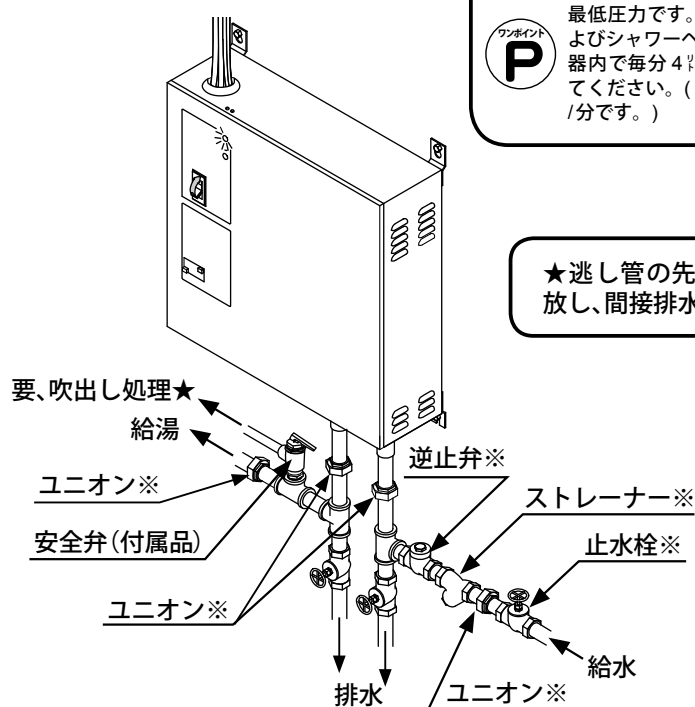
!	給湯側の配管途中に必ず安全弁（付属品）を取り付けてください。 万一の不動作で、湯沸器の破裂のおそれがあります。
⊘	鳥居配管はしないでください。 破裂・故障の原因となります。

⚠注意

!	異種金属の配管をする場合は、電食防止を施してください。 漏水の原因になります。
	規定の給水圧力にてご使用ください。 誤動作や故障の原因になります。
	配管距離は最長で 6m 以内としてください。 破損や故障の原因になります。
	水の凍結が予想されるところでは凍結防止処置を施してください。 タンクや配管が破裂してやけどをするおそれがあります。

- ①給水一次側にお客様手配品の逆止弁・ストレーナー・止水栓・ユニオンもしくはフランジを必ず取り付けてください。
- ②給湯側に付属の安全弁 (0.5MPa) を必ず取り付け、その先には逃し管を設置して間接排水を行なってください。また、給湯配管にはユニオンもしくはフランジを取り付けてください。

EI-N4 配管参考図



最小圧力 0.1MPaは給湯側開放状態で作動する最低圧力です。実際の利用に当たっては配管およびシャワーヘッドなどの圧力損失を計算し、機器内で毎分 4ℓ以上の流量を得られるようにしてください。（※ EI-N4の許容限界流量は30ℓ/分です。）

★逃し管の先端は必ず大気へ開放し、間接排水としてください。

※=お客様手配品

③電気工事

⚠警告	
⚡	アース(D種接地) 工事を確認してください。 アース工事がされないと故障や漏電の時に感電するおそれがあります。
!	電圧は規定電圧の± 10%以内でお使いください。 火災の原因になります。
	必ず電源一次側に漏電ブレーカーを取り付け、動作を確認してください。 故障のまま使用すると漏電の時に感電するおそれがあります。
	結線部は正しく、ゆるみがないように配線作業をしてください。 発火・感電の原因となります。
🚫	絶対に改造はしないでください。 火災・感電・やけどやケガの原因となります。修理は弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご用命ください。
🚫	通電中は端子部に触らないでください。 感電・短絡します。
	設置時およびリセット操作時以外は前面パネルを開けないでください。 感電・やけどのおそれがあります。

前面パネルを開ける

- ①本体四隅にあるネジを外してください。
- ②前面パネルを手前に引いて開けてください。

配線する

- ③膜付グロメットの膜に切り込みを入れます。
膜付グロメットの径はφ45mmでグロメットを外すとφ51mmになります。

- ④電源コードを通してください。(内線規定による耐熱60℃の電線の場合、右表のようになります。)

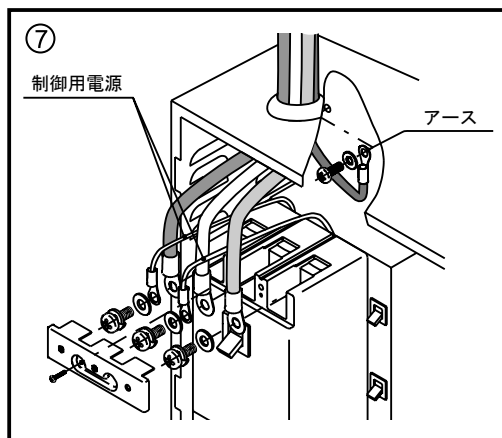
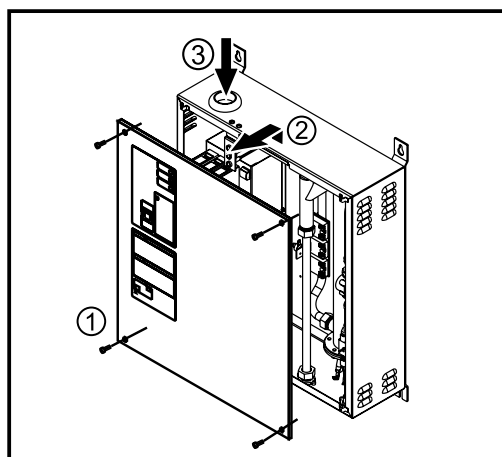
◆引込電線表(内線規定による)

機 種	引込電線断面積
EI-10N4	5.5mm ²
EI-15N4	5.5mm ²
EI-20N4	14mm ²
EI-30N4	38mm ²
EI-40N4	60mm ²

- ⑤漏電ブレーカーをOFFにしてください。
- ⑥配線用遮断器のスイッチがOFFになっている事を確認してください。
- ⑦右図のように配線してください。

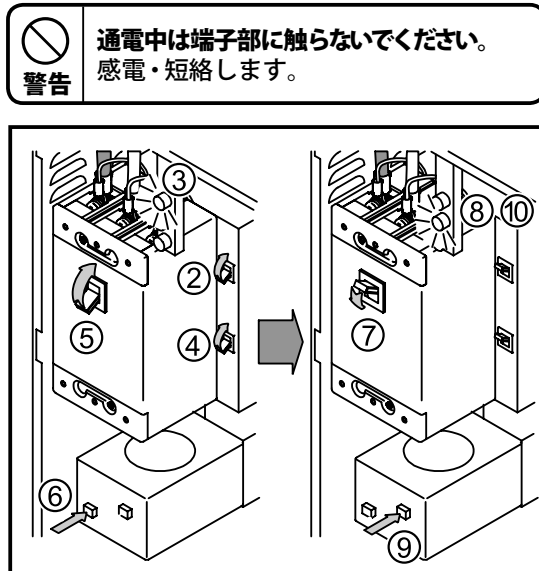


警告
制御用電源の端子が右図のように電源端子の上になるように配線してください。
図と違う配線を行なった場合、発火・感電の原因となります。



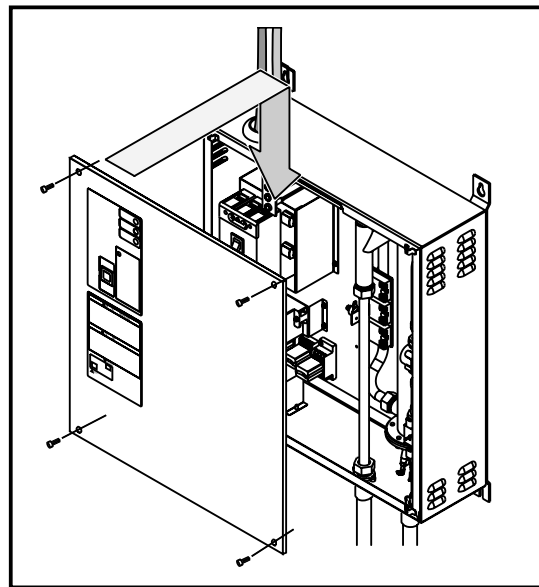
④配線用遮断器の動作確認

- ①漏電ブレーカーをONにしてください。
- ②EI-N4 本体の回路保護器 1をONにしてください。
- ③電源表示灯が点灯しているのを確認してください。
- ④回路保護器 2をONにしてください。
- ⑤配線用遮断器をONにしてください。
- ⑥テストスイッチを押してください。
- ⑦配線用遮断器がOFFになります。
- ⑧漏電表示灯が点灯します。(⑦⑧がうまく動作しない場合は、配線が正しくされているかどうか確認してください。)
- ⑨リセットスイッチを押してください。
- ⑩漏電表示灯が消灯します。



⑤前面パネルの取り付け

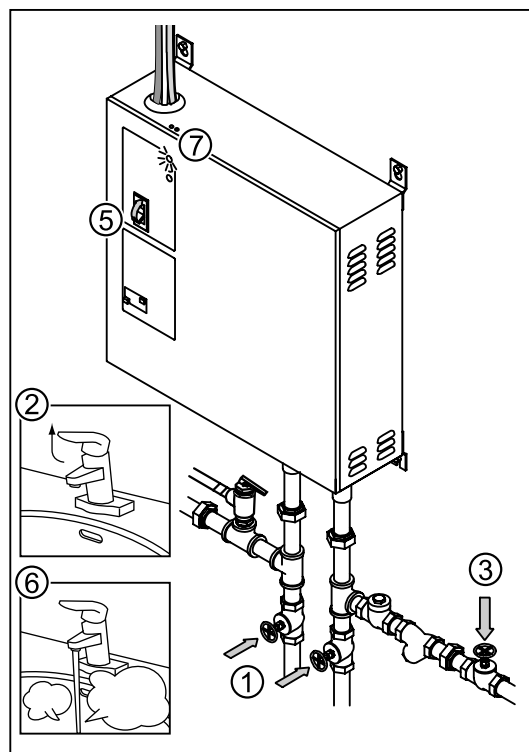
- ①配線用遮断器がOFFになっているか確認してください。
- ②回路保護器 1および2がONになっているか確認してください。
- ③右図のように前面パネルを閉じてください。
- ④四隅をネジで固定してください。



引き続き次ページの試運転・施工後の確認を行なってください→

⑥試運転を行う

- ①排水バルブを閉めてください。
- ②混合水栓を開けてください。
- ③止水栓を開けて湯沸器と配管に通水し、混合水栓からの水の出方が安定したら閉めてください。
- ④配管部に水漏れがないか確認してください。
- ⑤配線用遮断器をONにしてください。
- ⑥混合水栓を再度開き、4リットル／分以上の流量で水を出して温水が出ることを確認してください。確認できたら混合水栓を閉めてください。(配管距離が長い場合はお湯が出るまで時間がかかります。)
- ⑦電源表示灯のみが点灯していることを確認してください。



⑦施工後の確認

チェックリスト

項目	チェック内容	チェック
漏水	各配管、継手に漏水はないですか？	☐
電圧	規定電圧(三相 200V) ± 10% 以内ですか？	☐
ヒーター絶縁抵抗	2MΩ 以上ありますか？	☐
ストレーナー	ストレーナーの中にゴミ詰まりはないですか？	☐
安全弁	給湯側に設置されていますか？ また吹出していませんか？	☐
給湯	混合水栓を開くと水温が上昇しますか？	☐

取扱説明

製品を正しくお使い頂くため、湯沸器をお使いの前によくお読みください。

使用方法

⚠警告	
	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、給湯蛇口に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	使い始めや排水時には瞬間的に熱湯が出ることがありますので、お湯に触れないでください。 やけどのおそれがあります。
	湿気の多い場所や浴室には設置・使用しないでください。 水が掛かったり結露が生じる場所で使用すると故障や感電のおそれがあります。

⚠注意	
	湯沸器本体および配管に乗ったり体重を掛けたり物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、漏水や故障の原因となります。
	水質基準に適合した水道水以外は使用しないでください。 健康を害したり、漏電、漏水、故障の原因となります。水道水に添加物を混ぜることも同様の危険があります。
	長期間のご使用によってタンク内に水アカがたまったり、配管材料の劣化などによって水質が変わることがありますので、固形物や変色・にごり・異臭があった場合は飲用にしないでください。給湯温度が 60℃ 以下の場合は、今一度やかんなどで沸かしてからお飲みください。 健康を害するおそれがあります。
	規定の給水圧力にてご使用ください。 誤動作や故障の原因になります。
	給水温度の上がりすぎに注意してください。 やけど、漏水、故障の原因となります。

①使用前の準備と確認

- ①給湯側の混合水栓が閉じていることを確認します。
- ②漏電ブレーカーおよび湯沸器の配線用遮断器をONにします。(→ P.5「各部名称」参照)
- ③止水栓(→ P.10「配管参考図」)を開きます。(止水栓の位置と操作方法が分からない場合は施工業者様へおたずねください。)

チェックリスト

項 目	チェック内容	チェック
本体まわり	近くにガス類や引火物がないですか？	☐
	本体の上には物などを載せていませんか？	☐
	安全弁が吹き出ていませんか？	☐

⚠ 故障時の対応策をおとりください

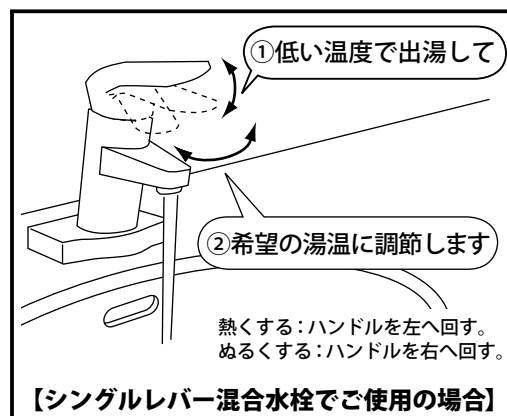
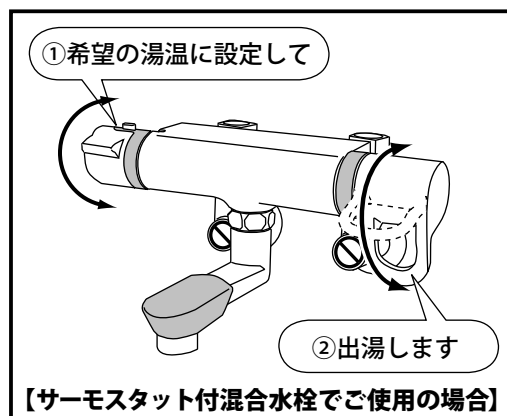
故障した場合、修理完了までの間機器は使用できません。給湯不能時の営業保証はいたしませんので「故障＝営業停止」に至るような使い方はお避けください。予備機を設置するなど運用でカバーできる体制を事前にお整えください。

②お湯を出す／お湯の温度を調整する

EI-N4には水の流れを検知するフロースイッチが組み込まれており、混合水栓を開いて流した水の量を検知することでヒーターへの通電を開始し、お湯を沸かします。

お湯の温度は能力の範囲で流量(給湯量)に応じ、43℃だけ昇温したお湯を給湯します。(EI-10N3は38℃昇温) そのため、ご使用時には湯温を簡単に調整できる混合水栓やサーモスタット付混合水栓で温度を調節しながらお使いください。

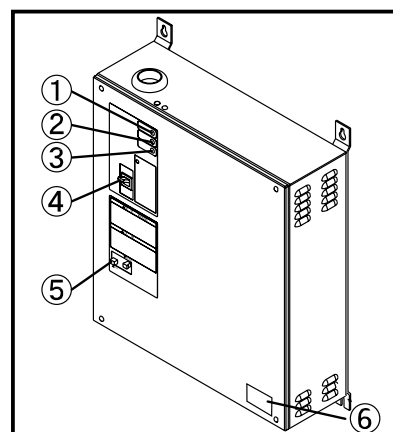
給湯栓による湯温調節



使用中、給水圧力が0.1MPa以下、または流量(出湯量)が毎分4リットル未満になるとヒーターへの通電がストップし、お湯になりません。他の給水による水圧変化や給湯栓の絞りすぎにはご注意ください。

③ランプの点灯状態について

- ①電源表示灯 : 電気が供給されているときに点灯します。
- ②漏電表示灯 : 漏電したときに点灯します。点灯した場合は修理をご依頼ください。
- ③故障表示灯 : 故障したときに点灯します。点灯した場合は修理をご依頼ください。
- ④ブレーカー : 使用するときONにしてください。レバーが上にあるのがONの状態です。
- ⑤漏電保護リレー : 月一回テストしてください。



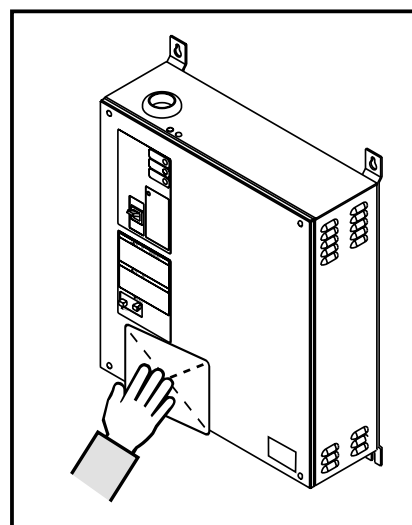
長期間使用しないときは

- ①漏電ブレーカーおよび湯沸器の配線用遮断器をOFFにします。
- ②止水栓を閉め、給水を止めてください。

お手入れの方法(外装の清掃)

外装の汚れは水に浸して固く絞った布で、汚れがひどいときは薄い石鹼水に浸して固く絞った布で拭いてください。

なお、お手入れの際には、研磨剤や溶剤などは使用しないでください。



こんなときは

湯沸器が正しく運転しない場合や不調な際の修理ご依頼の前にご確認ください。

※表示灯凡例：○ = 点灯、● = 消灯を示します。通常、一番上の電源表示灯のみが点灯している○●●の状態が正常です。

◆ P.5 各部名称、P.10 配管参考図も併せてご参照ください。

状況	表示灯※			ご確認ください	対処方法
	電 源	漏 電	故 障		
水もお湯も出ない または 出が悪い	○	●	●	断水ではありませんか？	水道局へお問い合わせください。断水中は使用できませんので、断水が終了するまでお待ちください。断水が終了した後、お湯が濁っているような場合には濁りがなくなるまで出しつづけてください。
				止水栓は適切に開いていますか？	閉じている場合は開いてください。
				配管に取り付けられているストレーナーが詰まっていますか？	ストレーナーの清掃を行なってください。(清掃に関しては設備業者様にお問い合わせください。)
				給水圧力が低すぎませんか？	湯沸器が適切に運転するため給水圧力は0.1MPaが必要です。給水圧力が低い場合は設備業者様へご相談ください。
				配管が凍結していませんか？	配管内が凍結すると湯沸器が作動しません。凍結防止処置については設備業者様へご相談ください。
お湯が沸かない (水のまま)	○	○	●		漏電しています。危険ですのでただちに使用を中止し、裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社まで至急ご連絡ください。
	○	●	○		湯沸器の故障です。裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご連絡ください。
	●	●	●	停電ではありませんか？	電気の復旧をお待ちください。
				漏電ブレーカーが落ちていませんか？	ブレーカーをONにしてください。漏電や電気容量オーバーの可能性がある場合は使用せずに設備業者様へご相談ください。
	○	●	●	配管は正しく行われていますか？	給湯と給水の配管に間違いがないか設備業者様に確認をご依頼ください。
				給水圧力が低すぎませんか？	湯沸器が適切に運転するため給水圧力は0.1MPa以上が必要です。給水圧力が低い場合は設備業者様へご相談ください。
				流量(出湯量)が多すぎたり少なすぎるのではありませんか？	湯沸器が適切に運転するための流量(出湯量)は毎分4ℓ以上です。この範囲以下の場合、運転は行われませんので、給湯栓や止水栓を調整してください。 給湯栓および止水栓が調整されているにも関わらず流量が適切に取れない場合はストレーナー詰まりや元々の給水圧力が不足している可能性があります。(設備業者様にお問い合わせください)
				湯沸器の配線用遮断器がOFFになっていませんか？	ONにしてください。

次ページに続く→

取扱説明

こんなときは

→前ページより

状況			ご確認ください	対処方法
お湯が沸かない (水のまま)	○	●	○	過昇温防止サーモが作動していませんか？ 過昇温防止サーモはダイヤフラムやフローズイッチのゴミ詰まりや動作不良、もしくは配管が長すぎる等が原因で作動する可能性があります。漏電ブレーカーと配線用遮断器をOFFにした後、P.20「リセットの方法」に記載の過昇温防止サーモのリセット操作を行うことで復帰しますが、再発防止のためには必ず原因を取り除いてからご使用ください。(復帰操作は湯沸器内部を操作しますので 必ず技術者の方が行なってください。)
お湯がぬるい	○	●	●	給水温が低すぎませんか？ 水温から43℃(EI-10N4は38℃) 昇温します。機器能力以上の温度での出湯はできませんのでご了承ください。
				混合水栓の給湯と給水の圧力バランスは取れていますか？(給湯側のバルブは十分開いていますか？) やけどに注意しながら「湯だけ」・「水だけ」をそれぞれ出して流れる量を比較してください。両方の出方のバランスが取れていない場合は設備業者様へご相談ください。
				流量(出湯量)が多すぎませんか？ 湯沸器が適切に運転するための流量(出湯量)は4リットル/分以上です。給湯栓や止水栓を調整してください。
				混合水栓が故障していませんか？ 故障の場合は混合水栓メーカーの販売店にご相談ください。
お湯が熱すぎる	○	●	●	給水温が高すぎませんか？ 水温と給湯量によって給湯温度は変わります。混合水栓をご使用になり水と混合して給湯を行ってください。
				混合水栓の給湯と給水の圧力バランスは取れていますか？(給湯側のバルブは十分開いていますか？) やけどに注意しながら「湯だけ」・「水だけ」をそれぞれ出して流れる量を比較してください。両方の出方のバランスが取れていない場合は設備業者様へご相談ください。
				混合水栓が故障していませんか？ 故障の場合は混合水栓メーカーの販売店にご相談ください。
汚れたお湯が出る	○	●	●	断水や水道工事が行われていませんか？ 濁りがなくなるまで出しつづけてください。
				配管が腐食していませんか？ 配管のサビ等による赤水が続く場合は設備業者様へご相談ください。
漏水している	○	●	●	どの部分からですか？ 湯沸器本体からの場合、すぐに止水栓を閉めて漏電ブレーカーと配線用遮断器をOFFにし、裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご連絡ください。 配管接続部からの場合は漏水箇所を締め直してください。

これらの対処を行っても改善されない場合は、裏表紙に記載の弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までご相談ください。

リセットの方法

修理技術者の方のみ

⚠警告

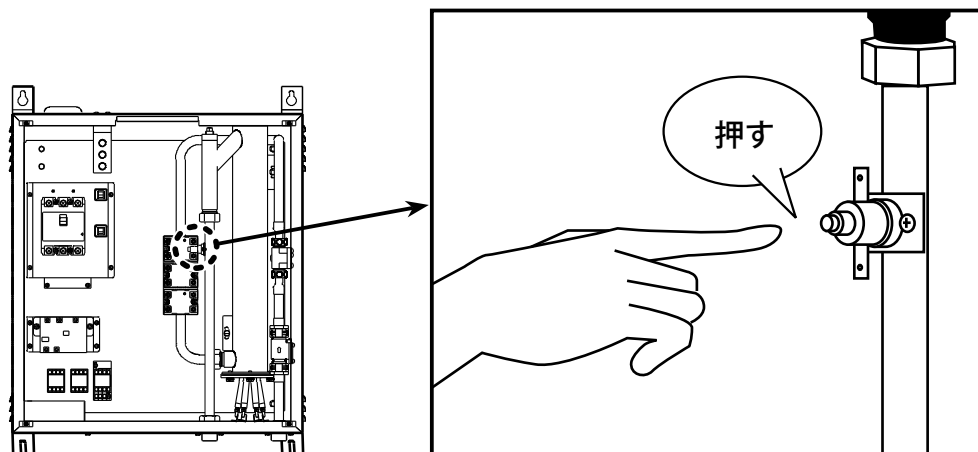


設置時およびリセット操作時以外は前面パネルを開けないでください。
感電・やけどのおそれがあります。

※これらの操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、
専門の技術者へご依頼ください。

機器水管部内の温度が約 85℃を超えると自動的に過昇温防止サーモが働き、運転を停止します。
過昇温防止サーモが作動した場合は原因を確認した上で以下の作業をリセット操作を行なってください。

- ①漏電ブレーカーと配線用遮断器をOFFにします。
- ②ネジ止めされている前面パネルを外します。
- ②内部の温度が十分下がっている事を確認した後、過昇温防止サーモのリセットボタンを押します。



過昇温防止サーモはダイヤフラムやフロースイッチのゴミ詰まりや給湯配管が長すぎる場合にも作動しやすくなります。
上記のリセット操作で運転復帰しますが、必ず原因を取り除くようにしてください。ご不明な場合は弊社フロント課もしくは最寄りの地区販売会社までお問い合わせください。

修理をご依頼の際には

型番等は本体に貼られている保証票に印刷されておりますので、故障状況シートへ転記してください。

型式番		保証票 GUARANTEE LABEL	
Model			
型式許可番号		屋内用	
電源・電力			
製造番号		最高使用圧力	
Serial NO.			
		MPa	
 株式会社 パーカール			

※もしくは裏表紙に記載の最寄り地区販売会社へご連絡ください。

故障状況シート			
貴 社 名		ご担当者名	
ご 住 所			
T E L		F A X	
製 品 型 番	EI- N4		
電源・電力		製 造 番 号	
設 置 場 所		保 証 期 限	
状 態			

アドバイス&メンテナンス

データベース管理と専門技術で安心・快適のサポート。

お買い上げいただいた機器はすべてデータベースに登録。定期点検の時期などを的確に管理し、豊富な経験と優れた技術を兼備した専門スタッフが責任をもってサポートいたします。イトミック製品を安心してお使いいただくとともに快適な温水環境をお届けするため、アドバイスとメンテナンスを心を込めて提供いたします。

アフターサービスのお問い合わせ

ITOMIC 全国共通ナビダイヤル
オー・イ・ト・ミック

TEL **0570-011039**

ご依頼時に必ず型番・製造番号をお知らせください。

メンテナンス契約

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは下記の弊社フロント課までご連絡ください。また、部品のご注文もフロント課で承っています。

TEL : 03-3621-2161(代)

FAX : 03-3621-2163

24時間サービス体制

夜間専用電話 : 東京 03-3621-2161

● ISO9001 認証取得 ● 経済産業省電気用品製造事業届出工場 ● 日本水道協会検査委託登録工場 ● 日本電気工業会正会員 ● 日本ボイラ協会会員 ● 建設業許可

株式会社 日本イトミック

営業本部

〒130-0002 東京都墨田区業平 5-11-3 イトミックビル

TEL 03(3621)2121(大代表) FAX 03(3621)2130

フロント課(保守・部品・修理)

TEL 03(3621)2161(代表) FAX 03(3621)2163

本社工場

〒143-0002 東京都大田区城南島 4-6-8

TEL 03(3799)7311(代表) FAX 03(3799)7910

ホームページ <http://www.itomic.co.jp/>

《地区販売会社・営業所》

北海道地区	●(株)北海道イトミック	〒063-0801 札幌市西区二十四軒 1 条 5-1(ラポール 24 軒 2 号館)	TEL 011(615)6681(代)	FAX 011(615)7004
東北・新潟地区	●(株)東北イトミック	〒981-3125 仙台市泉区みずほ台 4-3	TEL 022(773)6161(代)	FAX 022(773)6213
中部・北陸地区	●(株)中部イトミック	〒460-0002 名古屋市中区丸ノ内 2-16-30(丸の内魚住ビル)	TEL 052(222)2561(代)	FAX 052(222)2559
近畿地区	●関西イトミック(株)	〒541-0041 大阪市中央区北浜 3-7-12(東京建物大阪ビル)	TEL 06(6226)0800(代)	FAX 06(6226)0802
	// 神戸営業所	〒650-0001 兵庫県神戸市中央区加納町 4-4-17	TEL 078(325)2833(代)	FAX 078(325)2832
中国・四国地区	●(株)中国イトミック	〒730-0051 広島市中区大手町 1-7-12(徳永ビル)	TEL 082(240)1361(代)	FAX 082(240)1363
九州・沖縄地区	●(株)九州イトミック	〒812-0007 福岡県博多区東比恵 3-28-5	TEL 092(481)3911(代)	FAX 092(481)3930